

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

<b>江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録</b>	
開催日時	平成27年7月23日（木）午後2時00分～4時00分
開催場所	江田島市役所 本庁 2階会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>周藤 康治 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所            寺崎 雅浩 広島県健康福祉局子育て・少子化対策課            上迫 滋 広島県 CCMO（県政コミュニケーション・マーケティング 総括監）            中井 高志 江田島市金融懇談会            濱中 繁美 江田島市自治会連合会            富田 美保 江田島市PTA連合会            加藤 真由美 江田島市認定こども園こよう保護者会            清水 昭彦 田舎暮らしを楽しもう会            平田 圭司 江田島市商工会            伊藤 富美雄 江田島市観光協会            市村 匠 公立大学法人県立広島大学（座長）</p> <p>■江田島市            島津 慎二 企画部 部長  <b>【事務局：企画部企画振興課】</b>            畑河内 真 企画振興課 課長            猪垣 英治 企画振興課 課長補佐            道本 浩二 企画振興課 専門員  <b>【事務局：株式会社エブリプラン】</b>            木原 隆</p>
欠席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>村上 浩司 江田島市農業委員会            久保河内 鎮孝 江田島市漁業振興協議会</p>
傍聴者	11名
会議次第及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会            2 座長指名            3 座長あいさつ            4 委員紹介            5 協議事項            （1）まち・ひと・しごと創生法の概要等について【資料1】            （2）第2次江田島市総合計画の概要等について【資料2-1, 2-2】            （3）地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の検討体制等について【資料3-1～3-4】            （4）江田島市人口ビジョン・江田島市総合戦略のたたき台について【資料4-1, 4-2】            6 閉会</p> <p><b>【資料】</b>            資料1 : まち・ひと・しごと創生法の概要等について            資料1 参考資料：まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」            資料2-1：第2次江田島市総合計画の概要について            資料2-2：第2次江田島市総合計画の要旨            資料2 参考資料：江田島市まちづくりアンケート調査結果の概要            資料3-1：地方版人口ビジョン及び地方版総合戦略の検討体制等について            資料3-2：江田島市まち・ひと・しごと創生本部設置要綱            資料3-3：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱            資料3-4：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議の傍聴に関する取扱い基準            資料4-1：江田島市人口ビジョンのたたき台について            資料4-2：江田島市総合戦略のたたき台について</p>

会 議 記 録	
事務局	<p><b>1 開会</b>                      本日はお忙しいなか、お集まりいただきありがとうございます。                      会議の開催にあたり、お手元の資料の確認をお願いします。最初に次第、1枚めくっていただくと資料1がごございます。次に、資料2-1、資料3-1、一番分厚い資料4-1の順です。不足はございませんか。</p> <p>それでは、会議を始めます。本日、議事録を作成しますので、机の上にボイスレコーダーを置いてあります。会議を録音させていただきますので、ご了承ください。                      ただいまより江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議第1回会議を開催します。会議は、次第に沿って進めます。</p>
	<p><b>2 座長指名</b>                      2の座長指名ですが、座長は田中市長から、公立大学法人県立広島大学の市村匠教授を指名させていただいています。市村教授から、ごあいさつをお願いします。</p>
座長	<p><b>3 座長あいさつ</b>                      皆さま、どうもお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。県立広島大学の地域連携センター長の市村です。よろしく申し上げます。                      実は、こういう「まち・ひと・しごと創生有識者会議」は各自治体でも、いろいろと行っておりまして、僕自身も複数の市町で参画しています。そのなかでも江田島市さんは、いろいろな点から大学と連携させていただいている自治体の一つとして、2009年3月に江田島市さんと本学は、包括協定を結んでいます。そのなかでも毎年、地域戦略協働プロジェクトという形で、いろいろな課題を解決することを行ってきています。そのようななか、このような会議の座長に指名していただき、誠に光栄な限りだと思っています。                      また、まち・ひと・しごと創生、地方創生に関することは、実は自治体だけではございませんで、大学も文部科学省で「地（知）の拠点整備事業」という形で、いわゆる「COC+」という公募が行われていて、本学も申請校として、先日申請しました。これは、同じように大学の学生が卒業後も、その地域に残って活躍するようにということを考えて、雇用の創出および大学の教育改革を行うといった事業です。本学は、広島県全体として申請しています。もちろん江田島市さんも、そのなかの一つとして考えているところです。そういったなか、自治体という立場で、このような地方創生を行っていくことを、ぜひ皆さまと一緒に進めていきたいと考えています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。                      本日は第1回目の会議ですので、委員の方をご紹介いたします。自己紹介でひとことずつ、お願いします。</p>
各委員	<p><b>4 委員紹介</b>                      ※濱中委員から、自己紹介（P1の「出席者－有識者会議委員」を参照）。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。                      なお、本日は市の農業委員会の村上委員と、市の漁業振興協議会の久保河内委員がご欠席となっております。よろしく申し上げます。                      次に、事務局も紹介させていただきます。                      本日はお忙しいなか、集まっておいただきましてありがとうございます。企画部長の島津です。よろしく申し上げます。                      江田島市企画振興課長の畑河内です。地方創生の関係を企画振興課で所掌していますので、皆さま方には、複数回ありますが、いろいろ忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。                      企画振興課課長補佐の猪垣です。よろしく申し上げます。                      企画振興課の道本です。担当をしています。よろしく申し上げます。                      それでは、これ以降、5の協議事項となりますが、会の規約により、座長は会議の議長となるとしていますので、ここからの進行は、議長にお願いします。</p>

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

座長	<p><b>5 協議事項</b></p> <p>それでは、次第5、協議事項が4つございます。次第5の1、『まち・ひと・しごと創生法』の概要等について、資料1に基づき事務局から説明していただきます。</p>
事務局	<p><b>(1) まち・ひと・しごと創生法の概要等について【資料1, 参考資料】</b></p> <p>資料1をご覧ください。本日は、最初の会議ですので、まず地方創生の制度等についてご説明します。（「まち・ひと・しごと創生法の概要等について」説明）</p> <p>※内容は資料1, 参考資料のとおり</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>資料1について、質問があればお願いします。</p> <p>質問が無いようでしたら、次に進みます。</p> <p>※質問無</p>
事務局	<p><b>(2) 第2次江田島市総合計画の概要等について【資料2-1, 2-2, 参考資料】</b></p> <p>資料2をご覧ください。（「第2次江田島市総合計画の概要等について」説明）</p> <p>※内容は資料2-1, 2-2, 参考資料のとおり</p>
座長	<p>資料2について、質問があればお願いします。</p> <p>それでは、私から、資料2の参考資料の7ページに写真が載っています。実は、総合戦略を立てなさいとあって、他の自治体の話ですが、ワークショップから始めるところがあって、過去、江田島市さんは2年間かけてこういうことをやっていますが、他の自治体では、超特急で、これを月1～2回のペースでやっています。皆さんの意見を集約して、自由に意見を言ってもらって、似たような意見をまとめて、それでどういう考え方があるかということ、抽出していく手法を行っていると思います。ですから、結果として、今の総合計画の要旨というところが生まれてきていると考えられます。さらに、参考資料2ページに問題点が掲げられています。いいところを伸ばすというのと、問題点は何かということに着目することも、同じように重要なことだと考えられますので、その辺もご覧ください。</p> <p>他に、この件について質問はありますか。無いようでしたら、次に進みます。</p> <p>※質問無</p>
事務局	<p><b>(3) 地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の検討体制等について【資料3-1～3-4】</b></p> <p>資料3をご覧ください。（「地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の検討体制等について」説明）</p> <p>※内容は資料3-1, 3-2, 3-3, 3-4のとおり</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>資料3について、質問があればお願いします。</p> <p>質問が無いようでしたら、次に進みます。</p> <p>※質問無</p>
事務局	<p><b>(4) 江田島市人口ビジョン・江田島市総合戦略のたたき台について【資料4-1, 4-2】</b></p> <p>資料4をご覧ください。（「江田島市人口ビジョン・江田島市総合戦略のたたき台について」説明）</p> <p>※内容は資料4-1, 4-2のとおり</p>
座長	<p>人口ビジョンと総合戦略のたたき台について質疑があればお願いします。</p>
委員	<p>江田島市では10年後、2万3,000人という目標値ですが、毎年約300人の人が減っていくんですね。そうすると、10年したら3,000人、今、2万5,000人ちょっとですから、2万3,000人を割り込むわけですね。民間企業の将来人口推測にしても、10年ぐらいたと、みな2万人ちょっとの推移が出ていますね。大変厳しい数字じゃないかと思います。そのなかで、若い人、高校生を卒業するまでの男女は、ほぼ同格だそうですが、20代～40代になる女性が、2～3割減っているらしいです。そこらは、どういう、何かあるのか、わかれば聞きたいのですが。</p>
事務局	<p>それぞれ国勢調査を基に、このデータを出しています。具体的に、なぜ減ったのというところまで、なかなか個別の事例まで追い切れないのが実情ではあります。ただ、出て行っている年代を見ると、明らかに大学進学、新たな就職といった層が、多数減っているというのは、移動のグラフを見て明らかだと思いますので、正直なところ、大学をなんとかしようというのは、難しいことだと思いますが、仕事がネックになって出ていく方が多いかなと思っています。</p>

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

委員	女性のほうが、それが多いということですか。
事務局	なぜ女性が多いかというのは、なかなか難しいところがありますが、推測ではありますが要素としては、もしかしたら結婚された方が、そちらの住所地、仕事のある住所地に移ることも、もしかしたらあるかもしれません。
委員	<p>この政策は、どうしてもやる、国策ということでもあるでしょうし、江田島の生き残りということでも関係しますが、私は来て13年を過ぎましたが、市になって去年11月で10年ということ、市としては若いと思いますが、意識の問題ですが、今江田島市の置かれている状況はどうだということを、皆さんがまだ認識していない。危機感まで、持っていないということが、非常に大きな問題だと感じています。今、中国五県で53の市がありますが、そのなかで市の人口が一番少ないのが江田島市です。そして、財政力指数も、今は35%です。夕張が破綻したのは23くらいです。もう間近になっているということ。それから、国の機関の見方として、15年後に消滅するであろう市町のなかに、江田島市は入っています。そういうことを考えたときに、住民はもちろんですが、行政も、もっと危機感を持って対処してもらいたい。このような流れだったら、絶対ダメです。その辺を、まず踏まえて、今からこういう会議を、どういうことでやっていくのかということ、真剣に考えていかないと、これでは江田島市が生き残れないと。</p> <p>私も江田島が好きで、ここへ移住してきて、なんとか生き残って、よその市町に合併、編入になりたくない、せつかくいいところで、江田島市には、誇れるところがずいぶんあるんですね。だから、私もよそから来た者ですから、江田島市のいいところ、悪いところと、客観的に見る目はあると思っています。そういうなかで、ぜひ、いろんな部分が連携してやっていかないと、いまや、市役所のなかも縦割です。横の連携になる時代、そうしないと前へいかない。そういうことを痛切に感じているんですが、まず、この策をやる前に、市の体裁もあるでしょうが、今の状態はこうだということ、あからさまに出して、江田島市のみんなで頑張りましょうという格好に、まずもっていくことが一番の大事なことじゃないかと。このままずるずるいっても、人ごとのような感じでいくと思います。その辺の意識を変えていかないと、この事業は絶対にうまくいかないと私は思います。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりだと思います。私も、ここの江田島市に派遣で来るまでは、県の中山間地域振興課におりまして、山間部などの厳しい現状も見させていただいています。やっぱり思うのが、山側のほうは集落がぽつぽつと点在していて、そうしたところが、すごく高齢化していったって、何戸しかないという集落が、けっこうあって、そういったところは、危機感が全然違う、このままじゃ自分たちの生活がなくなるという意識を住民さんがすごく持たれています。</p> <p>江田島市は、これは幸せなことだと思いますが、そういった点在した集落という感じでもないですし、すぐ船に乗れば広島市の都市圏、呉市などに出て買い物などできるということで、恵まれた環境にあるということ、逆に人口はどういった状況ですよということが、そこまで見えていないのかという感想も、個人的には持っています。実際、こうしたデータを見てみれば、そんなに悠長に構えていられる感じじゃないですよというのは、見られると思いますので、こうしたことも、市民の皆さんが共有できる感じで、データを出していくことも考えていかなければいけないと思っています。</p>
座長	ありがとうございました。他にございませんか。
委員	3点あります。まず18ページの資料のなかの転入出の方、県外の方は外国人も入っていますか。日本人だけ？
事務局	外国人は含んでいません。
委員	含んでいないんですね。もう1つは、計画を事前に拝見させていただきましたが、今からこれをやっていくにあたって、第2次江田島市総合計画と合わせて、財政計画もつくってありますが、なかなか内容が厳しかったこともあって、これが本当に全部できるのか、予算化したときどうなるかを、この計画だけを見ていると、わかりづらい面がありますので、次回、データを充実させていかれるということですが、財政計画とリンクした形で、見ることができれば、個人的には、それも一緒に見ないと、本当にこれをやるのに、どれくらいお金がかかるか、どれくらい助成金、補助金が出るか、そこを見ないと、書いてあることは、全部そのとおりだと思いますが、果たして全部できるかということが、どうかと思います。

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

委員	<p>3つ目ですが、銀行で日々外を回っていると感じますが、広島銀行大柿支店のお取引先、これは貸出先に限定、ローンは除いて事業性の貸出先の6～7割が高齢者かつ後継者のいないお取引先です。われわれの10年後、20年後を考えたとき、果たして支店が存続できるかという心配をしています。そのなかで、農業、一次産業がどうしても衰退していく、カキ屋さんや農業、次の担い手がなかなか見当たらないということもありますので、そこにもう少し力を入れられてはどうか。後継者をきちんとつくることを行政が少しサポートしてあげることができないかということで、総務省のホームページにあります。国が地方創生の計画に、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）化をしてはどうかと書かれています。農業でいいますと、一生懸命勉強されて技術が高い方が、ノウハウを共有するという、いわゆる仕組みができていますね。</p> <p>そういうことを推進しているという記事を見まして、先人の知恵が次の世代に移る仕組みに少しお金を掛けてつくるべき。特に海と山と、一次産業はどうしても江田島市の産業と切り離せない部分だと思うので、そういう意味では、そういうICTというところに、見る限りでは、そこにお金が落ちるようになっていないので、されてはどうかと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。他にございませんか。</p>
事務局	<p>金額の話ですが、総合計画の実施計画がありまして、そこには10年だったか、5年だったかの単位で、これぐらい掛かるというのは、あるのはあります。どこまでこの戦略に書き込むかというのはありますが、それはバックデータとしてありますので、またそれは見ていただくことはできると思います。考えてみたいと思います。ICTについて、そういったことも、後継者について、あると思いますので、こういう辺りを、こういったご意見をいただければ、僕らも所管部署と話しをして、こういった意見が出たけれども、何かできることはないかと投げかけて整理したいと思います。ご意見をありがとうございました。こんな感じで、いろいろいただければと思います。</p>
委員	<p>よその自治体の例、徳島などは、そういうポータルシステムをつくったり、企業ではNECさんが、そういうものを商売としてやっています。ですから、江田島に合ったものを、外部からも意見をもらってサポートしてもらおうことも、1つの手段だと思います。</p>
座長	<p>ICTと言われたので、実は僕の専門です。僕は、地域オープンデータ推進会議を今度やることになっていて、中国五県が、そういうデータの使い方が、非常に遅れているということがあって、推進しましょうということをやります。そういったことも出ていて、ICTを使うということは、どういうことかということ、そこでただ使えばいいということではなくて、どういうデータが生まれて、それを活用するかということになります。これも、もともとデータを使って分析しましょう。今、人口も分析していますが、そういうことも考えなければいけない。ICTを入れるというだけじゃなくて、ICTを入れると企業が儲かるということになるので、そうではないよということですね。</p> <p>もう1つが、中山間地域において、県立大学でもいくつか庄原市・三次市とか、研究を進めているところがあります。特に問題なのが、ICTを入れるときに電波、無線が入らないという問題から、利用者が使えるか、使えないか、特に高齢者が多いとき、使い方はどうするのかということがあって、なかなかうまく使えない。こういった場面で使っていくか。例えば具体的に言うと、安芸高田市は企業が光を入れられなかったんですね。光ケーブルを入れてくれなかったの、自分たちで自治体の予算でケーブルを入れて、さらに各家庭に、タブレットがくっついた電話が置かれていて、月額いくらお金をとられるんですが、そういうなかで防災とか、個別の情報とか、お悔やみの情報があったりということも今、進められていて、それで健康管理も進めるという話も聞いたことがあります。</p> <p>問題なのは、その費用をどうやって継続して出していくかと、それを本当に使えるのかということがあります。もしそういうICTの要望があるのであれば、僕のほうで、それは調査研究は進めても構わないと思っています。それをやるにおいて、将来的にどう使うかを考えられたほうが、使い方を考えなければいけない。これは自治体の職員さんがよく先導してやるんですが、青森県は、僕の知り合いがやっていますが、高齢者に向けて、そういう使い方教室をしています。大学の先生が公開講座をやったり、いろいろしています。</p>

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

座長	<p>そういうところも、全部ひっくるめて考えないと、総務省が言っている ICT には、すぐにはなかなか結びつかない。逆にいうと、2000 年から IT 活用が進められていて、今 2015 年で、いきなりそれに追いつけと言われても、なかなか難しい、そういうギャップをどうやって埋めるかも、考えなければいけないということもあります。他にございませんか。</p>
委員	<p>基本目標で、国にも合わせているので3番に、結婚・出産・子育てが目標としてあるので、戦略のなかにも、結婚への取り組み、出産への支援という項目が欲しいなというのが一番にあります。特に、先ほどの人口ビジョンのなかで、若い女性の減少と、先ほどお話しもありましたが、その部分の分析なり、それに対するなんらかの施策を打ち出すと。この部分は、江田島市さんは、けっこう特徴なのかなと。女性が特に少ない。若い女性が出ていったまま帰ってこない。転出が多いというところの特色があるのだと思うので、そこに対しても、なんかの手といったものを、こちらの戦略に何か盛り込めればと思います。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、われわれも今回、こうやって並べてみて、やっぱり特に中身のところが手薄いというのは、すごく思っているところです。実際、どういったことをやれば効果的かは、頭を悩まさなければいけないのですが、未婚率のデータもあったとおり、そこら辺についても何か取り組めればなというところで、所管とも相談しながら考えていければと思います。ありがとうございます。</p>
座長	<p>他にございませんか。</p>
委員	<p>先ほどから少し女性が少ないという話も出ましたが、女性というわけではないですが、人口に対して何か手が打てないかということで、2年前から出合いを応援している。婚活支援事業という形で、主としては社協さん、商工会、市にも入っていただいて、2年間、継続して、今現在も取り組みを行っています。直接的な事業になると思いますが、それほど大きな規模ではないというところが少しネックになっていますが、継続的に、あきらめずに出会いを創出してあげないと、最近の若い方は、なかなか積極的に自らが鼓舞していくところへ結びつかないかなということで、事業として、そういった形で、自然に演出できる形を、もっと本腰を入れて取り組んでいってもいいのではないかと。最近になって、ようやく行政も、広島県も、それに対して取り組みを深めていこうという話も少し出てきていると思いますので、そこら辺を、今回のなかで取り組んでもらったらいいのではないかと思います。</p> <p>先ほど説明をたくさんいただきましたが、最終的には戦略的に具体策をつくっていく、例えばたたき台の8ページ、ここがほぼ網羅されている部分として、結局人口が減っていく、産業が衰退していく、働く場所がないという傾向をとどめるためには、どうしても事業を拡大して、そこで就業人口を増やしていくしかない。これができないと、どんどん衰退していくことは止められないのではないかと。商工会も含めてですが起業していただきたい。起業していただく方を見つけていくのですが、これが至難の業で、第二次起業としてはある程度あるのですが、まったく純然たる江田島市内のなかでの起業は、本当に稀なケースになっています。これも積極的に応援していかなければいけないのではないかと。新たに市外から、市内に入っていただいてご商売が、どんな形態でもいいと思いますが、当然それも応援していかなければいけないと思います。</p> <p>2項目目、農林業、水産業の支援、当然農協さん、漁協さん、大変な一心で、一生懸命やられていると思いますが、江田島市全体で取り組んでいって、その応援をさせていただくような、もっと具体的な施策が必要なのではないかと。これは、資料のあとのほうに、その内容のことを書かれていますと思いますが、そういうものを、この会議の場で、もう少し詳しく練っていけるものなのかどうなのか。先ほど予算の話も出ましたが、その辺の話を少しお伺いできればと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。具体的な施策、この戦略のなかにも、どういった形で書き込んでいくかはありますが、具体的な施策についても、ご意見をいただければ、それをまた所管と一緒に協議してやっていくことはできる。むしろ、それをやっていかなければいけないと思っていますので、ご意見については、ぜひ出していただければと思います。起業が少ないというあたりは、逆になぜ起業が少ないのだろうと。</p>

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

事務局 (続き)	<p>どういったことをやれば、起業がもっと出るのになというこで、アイデアがあれば、ぜひそういったこともおっしゃっていただければ、また施策を構築するわれわれ側のヒントにもなるかと思しますので、会議の場以外でもけっこうですので、またあれば、ぜひ教えていただければと思います。</p>
委員	<p>先ほど委員さんもおっしゃいましたが、本気でやらないと。逆にこちらから提案させていただくのも、もちろんですが、市のほうからも、ぜひ具体的な提案をしていただいて、産官お互いが歩み寄って物事が進んでいけるのが、一番望ましいのではないかと思います。先ほど言いましたように、協力体制が、いかに築いていけるか。実際に会議のなかでも、課長さんも出ていただいています、やはりまだまだ目に見える実績はできていないということも、市民の皆さんにも、理解をいただけるぐらい、物事を進めていかないと、非常に厳しいのではないかと思いますので、ぜひ、具体策をどんどん出していただきたい。逆にお願ひしたいです。よろしくお願ひします。</p>
委員	<p>今、いろいろなアイデアを出してやっていきましようとなったとしても、お金が掛かるわけです。財政のお金が、地方創生で、あの辺から出てくるわけですか。予算が、これが一番問題で、なんぼ、机上でプランを立ててやっても、お金がないからできないということであれば、なんぼ会議をしても、そのお金がある程度、補助金として出てくるのですか。</p>
事務局	<p>実際のところ、国から、この総合戦略をつくった場合、この総合戦略用に交付金が出るということで、国は今、調整されています。実際のところ、まだ具体的なところは、国の要求のしかたが出たばかりなので、制度的にどうなるかは、まだ全然決まっていません。予算規模も決まっていません。先日の新聞報道でいけば、全国レベルで1,100億円ぐらいの交付金規模と出ていました。</p> <p>平成26年度補正予算で、先行する形で、国から同じように総合戦略用に入れるようなことがあれば交付金をつけますという事例があって、そのときの予算規模が、関係部分でいえば1,700億円ぐらいだったということで、規模感は下がっています。そのときにきたお金が、江田島市で言えば5,000万ぐらいが来ていましたので、報道とかで最終的に、いろいろな巻き返しとかで、どうなるかわかりませんが、もし報道ベースでいくなら、5,000万より少ない額になるんだろうというところではありますが、これを推進するための交付金は、出る仕組みになっています。</p> <p>財政計画といったものも作っていますが、基本的には総合計画で見込んだ事業で、これから議論して、具体的な金額を出していくものは別ですが、それ以外のことは、基本的に総合計画の事業は、財政計画のなかに盛り込んでいますので、それに対して、今後、ここで議論いただいて、新しい取り組みを盛り込むというのは、さっきの交付金なども考えると、それは可能だとは思ひます。すごい建物をつくるとか、そこまでのものは厳しいと思ひますが、もっとソフト的なこととか、新しい取り組みを盛り込んでいく余地はあるということで、ご議論いただければと思ひます。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>皆さんの意見をいろいろ聞いていて、4月から広島県で、いろんな市町さんとやりとりをしています。僕はマーケティングを生業にしている、実は、県庁のなかの課長の皆さんとか、グループリーダーの皆さん向けの勉強会の研修もしています。そこでも常に言うのですが、2040年までに半分の市町が消えると言われていて、維持できなくなると。マーケティングはなんであるかという、お客をつくりだすためにあるんです。企業は30年のあいだで96%がつぶれてなくなります。維持できない。だから、お客をつくりださないと、選んでもらわないと、生き残れないので、一生懸命やる。どういうお客さんに、自分達ならではの価値で選ばれるかを、常に一生懸命考えて、なんとか生き残ろうとしている。</p> <p>今まで、自治体は人口が増えていたあいだは、そんなことを真剣に考えなくても、そんな簡単に引越せないし、人は増えているから、むしろ、どうやって校舎が足りないのをプレハブで補うかみたいなことのほうが忙しかったのですが、人がどんどん減るわけですから、選んでもらえないと、滅びるわけです。普通の企業と同じようになったので、マーケティングがすごく大事になってきている。</p>

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>そのときに、たたき台の2ページ目の下のほうに図がありますが、ここにすごく大事なことが書いてあって、上に「恵み多き島・えたじま」と書かれています。下の「未来を切り開くまちづくり」のところに、ターゲットを絞って横断的な施策事業実施と書いてあります。これはすごく大事で、ターゲットを絞らなければいけません。誰に選んでもらうのか。例えば、観光もサイクリングだけだと、他にもいろんな島があるかもしれない。でも、サイクリングとシーカヤックとトレッキングを、いっぺんに楽しめるとなると、かなり絞り込まれてきます。だから、そこで勝負すると決めて、そこで、要は何で日本一をとるかです。日本一にならないと仕方がないので、ただ、これはいいルールを自分たちでつくれば、そういう領域で、その3つがいっぺんにできるというルール、ゲームをつくって、そこで日本一になると決めれば、なれる要素はいろいろあると思います。自分たちの持っている材料を生かせば。</p> <p>そこで、いろんな施策が後ろに並んでいますが、横綱相撲をとっている場合じゃないので、あれもこれもやってもしょうがないので、ここで日本一をとると決めたら、そこで運命をかけて勝負に出るぐらいのことをしないと。僕も普段、東京と行ったり来たりしていますが、東京から見ると、僕はふるさとだから、よけいに注目して見っていますが、小さい存在ですよ。</p> <p>広島だって、銀河系だって、遠くから見れば光の点にしか見えないわけで、広島県が点に見えるぐらいの感じでしかない。そのなかで、目立って注目してもらって、選んでもらおうと思うと、よほど何かに集中して、何かで一番をとりに行くぐらいのことをしないと、気づいてもらえないし、選んでももらえないのは、現状だと思います。ただ、この立地だとか、ものすごくいい要素はいっぱいあるので、勝てる、勝負できるカードは、いっぱい持って、市長と話していても、いろいろあるんだけど、ひとひねりの知恵が不足していることをおっしゃっているのですが、そういうことだと思います。</p> <p>例えば具体例の話でいくと、今、東京辺りだと、企業ファームといって、企業が耕作放棄地を福利厚生用の田畑として、あいだにNPOが入りますが、借りて、そこに部署を超えた社員が家族を連れて毎週末、ツアーを出して通うんです。荒れ地を開墾するところからやって、そこで採れたお米や農作物を、社員食堂でみんなで食べる。そのたびに、福利厚生の費用で落ちるので、利益のうち、どうせ半分税金でもっていかれるやつを、福利厚生として、下手すれば一つの企業が1,000万ぐらいのお金を払うわけです。それで、受け入れ側のほうは、耕作放棄地がよみがえるし、受け入れ側の雇用も生まれるし。修学旅行もいいですが、修学旅行は行ったら、2回目がずいぶんあいだが空くので、一回きりですが、企業ファームは、通うという関係が生まれます。定期的に通ってくる人たちが出てくる。そうすると、広島ぐらい都市部と田舎が近いと、こっちに住んでもいいんじゃないという人が出てくる。一回の観光と移住のあいだは、けっこう距離が出ますが、通うという関係が出てくると、そこがだいぶ埋まってくるという。例えばそういう動きもあります。</p> <p>県も今、いろいろ施策をしていて、起業家人材を東京から呼び込もうと「里山ウェーブ2015」という施策が今、始まろうとしています。受け入れ側の市町さん、手を上げてくださいというのをやったんですが、島あたりからも、一つぐらい、どこかいけないですかといったのですが、残念ながら江田島は手が上がらなくて、大崎上島が手を上げて、そこと組むことになりました。橋が繋がっていないので、より危機感が強いと思います。そういうところと、どんどん組んで一緒にやりたいです。企業ファームも、それを関東でやっているNPOの代表と、県庁の中山間の課長を引き合わせる予定になっています。8月下旬に会うのですが、広島のサポートをお願いしようと思っています。それらが動き出すときには、ぜひ江田島と一緒にやりたいです。</p> <p>僕もふるさとで聞くと、そうやってボランティアで耕作放棄地を耕してサツマイモをつくって、芋焼酎をつくっている若い人がいる。ただ、ボランティアだから、これ以上、マンパワーがないので、これ以上頼まれても、なかなか受けきれないかもしれないという話も聞いたので、だったらそれを企業ファームとして、今度新たに貸し出して、企業から収入を得て耕してもらえないかという発想もあると思います。例えばそんなこと、一例ですが、どんどん一緒にやっていきたいと思っているので、先ほどお話しがあったように、具体的なものを、あれもこれもじゃなくて、ここで勝負すれば日本一がとれるのではないかと絞り込んで、されたらいいと思います。</p>
--------------------	---



【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

事務局	ありがとうございます。おっしゃるとおり、委員さんの意見でも、先ほど見ていただいたとおり、江田島市として売りたいものは、たぶん、みんな共通で思っているところになってくるんだと思います。それを、どうやってそのまま出すのではなくて、ターゲットを絞って、どうやって見せていくか、売り物を、どうやってブラッシュアップして、実際に来てもらって住んでもらうというところに結びつけていくかというのを考えていかなければいけないテーマだと思っていますので、総合戦略のなかに、そこまで書き込めるか、それとは別に検討していくかは、考えなければいけないと思いますが、そういった戦略的なことは、考えていかなければいけないと思っていますので、またその辺のことでいろいろお話を聞かせてもらえればと思います。よろしくをお願いします。
委員	総合計画のたたき台のなかの10ページ、提案というか、たたき台のなかの1つに加えていただければと思うのですが。後継者、担い手の育成があります。江田島市は、水産業は安定した労働力の確保ということで、外国人の研修生、実習生を受け入れています。このなかのメニューで、実習生の対応とか、いろいろな問題もありました。そのなかで江田島が抱えているしっかりした問題がありますから、それらを、この施策のなかに入れられるものかどうか、メニューに入るものかをご検討いただきたいと思っています。
事務局	研修生の、どういったことを。
委員	安定した確保、それと痛ましい事件がありましたので、しっかりとした対応を。漁協もそうですが、生産者、漁業者も含めたなかで、対応をしていくことが大切かなと。将来的にも思っています。入るかどうかわかりませんが、ご検討いただきたいということです。
事務局	外国人研修生は、何年かすると国に帰る人ということで、後継者確保という観点でいうと難しいかなというところはありますが。
委員	現実問題、割合が多くなっています。
事務局	業としてやっていくために、そういう労働力が必要。研修に来られて、現実問題として、そういうのがあるのはわかりますので、その辺りで、何ができるかというの、所管と話をしてみたいと思います。
座長	他にございませんか。先ほどの意見も踏まえて、いくつか、起業というところに関しては、他の市町と同様に、計画の法認定が中小企業庁から行われたと思いますが、江田島市さんも出していて、認定を受けられたのではないかなと思うんですね。そういうところの計画があるので、それにのっかって、実行することが必要ではないかと思っています。総合戦略を見ていて思ったのが、江田島という言葉を除いたときに、他の地区でもいいのではないかなと思いました。それには、オリジナリティがないというのが、よくある。僕もそういう申請書類を書いているときに、同じように言われたのですが、考えていけば考えていくほど、自分たちの身の回りの問題というものを、どうやって解決すればいいのかということが現時点であると思います。それをどうやって何年後までには、実現するのだということがあるんだと思います。 先ほどの皆さんのご意見を聞いて思ったのですが、地方創生の怖いところが、自立性というのがあります。それは、簡単にいうと各自治体で自分たちでやっていきたいと思いますと同時に、そこに住んでいる人たちも何か自分たちでやっていくということが必要なんだ、簡単にいえば汗をかきましょうということだと思っています。その汗のかき方が、あと、お金の使い方がなかなか難しいんだと思いますが、その部分の知恵を絞って、皆さんのご意見を出していただけたらと思います。 先ほどの起業に関しては、簡単なことを言いますと、僕も委員をやっている公益財団法人ひろしま産業振興機構とタイアップすることも可能です。本学も起業セミナーといって、法とか税務のことをやるのではなくて、自分たちの考えていることを、どうやって実現していけばいいのかということ、教えるというか、そういうセミナーを、外部の講師の先生を入れて、やるんですね。そういったものにも参加していただければ、全然問題ないんです。どなたでも参加オッケーという形にしているので、そういった情報を収集して流していただければ構いません。別の市でも、そういう起業のことをやっていますが、そちらでも、先ほどの中小企業庁の経産省ですが、お金の支援は受けられるはず。そういったところも活用するというのも可能です。

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

<p>座長 (続き)</p>	<p>これを読んでいて思ったところが、観光で、観光だけではなくて、他の戦略にも関係することだと思えますが、江田島だけを考えると、戦略を立てることはもちろん必要ですが、例えば観光であれば、他の隣の自治体でいろいろあるわけですね。広島県は2つの世界遺産があります。その2つの世界遺産に対して、皆さんは来るわけですね。外国人も来ます。一番問題なのは、そのあとどうするか。みんな、帰ります。たぶん同じことが、帰るのはどこへ帰るかという、京都に帰ります。別のことを言えば、中国人の爆買い、その目的を達成すれば、みんな帰るとか、そういう問題がありますが、逆にその目的に合ったようなものを提供してあげれば、人が来るでしょうし、来ないのであれば、他と一緒に協力してやりましょうとやれば、人が来ると思います。</p> <p>実は、僕はそういうところも人の流れというものを研究していて、京都でやったことがあります。京都に、あれだけ観光客が来るんですが、まだ足りないといひます。どうすればいいかと。ホテルが、空いている日があるじゃないかと言われます。空いている日を、いつ空いているかを見つけて、それを全部、いわゆるビックデータの解析をして、空いているところを見つけて、ここにイベントを打ちましよう、新しいイベントを打って、ほぼ京都は満杯です。そういうことをやったこともあります。今、一つの大きな例を言いましたが、他の市町との連携を考えたり、音声だけのインタビューでテレビに出ているはずですが、呉の大和ミュージアムの10周年の記念のときに、なぜ江田島とつなげないのですかという話をしました。そしたら、言っているんですが、江田島さんのほうが、なかなか受け入れてくれないんですと、向こうは言っていました。だから、逆のこともあると思いますが、もう少しそういった意味での連携、交流を図ることも必要ではないかと思ひます。それから、安心したまちといったところで、医療が書いてあります。これは当たり前のことだと思ひますが、生活習慣病も厚生労働省から、かなりお金をもらって研究したことがあります。生活習慣病をどうやって治療するか、これは治療できません。生活習慣病は病気ではなくて、運動不足と老化に伴ってたくさん食べてしまうところがあるので、その2つを考えると、自分の体力、年齢を考えた生活を行っていきましょう、その改善をしましようということが生活習慣病なんですね。もちろん、それを超えた場合は、薬を飲まなければいけませんし、いろんなことがあります。そういった問題を解決するために、どうやったら健康維持できるか、これも2000年に行われた「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」に載っています。そういうところを具体的に行っていくか、これは自治体だけじゃダメです。病院だけでもダメです。栄養管理士だけでもダメです。皆さまの家族というものが必要です。家族で、そういう一生懸命みんなで改善しましようということが必要です。もう1つ、安心した生活、子どもを養育できるかというところで、他の市町でいうと、保育所という話も出ています。まち全体で、子どもを育てていこうということを、他の自治体で言っていました。自分の子どもというのが、自分の子どもじゃなくて、まち全体の宝だと、そういった形で、育てていしましようという考え方でまちづくりをしていこうという考え方が出ています。今言ったようなことは、僕はすごくアバウトに言ったのですが、そういうことを、皆さまが、こういうことをしたらいいのではないかと、それが、こういう案があるよというのが、それが具体的に施策になっていくと思ひます。先ほどの予算が出るかどうかというところまで、予算をつける方としてみれば、そういう具体的な案が、これはいいね、実現可能性が高いねと思えば、予算化してもらえます。数千万というお金もあると思ひますが、案に対して、ちゃんといくらか出しますよ、これをやってくださいねと、そういうようなお金が出てくると思ひます。今、問題は、自治体の職員の方だけだと。失礼ですが限界があると思ひます。自分たちの身の回りのことで、こういうふうに改善したらいいんじゃないのという案とか考え方を言っただいて、それがこの戦略に書けると、それが他の地域と違った形で、総合戦略になると思ひます。そのこの部分が僕は必要ではないかと思ひました。他にございせんか。</p>
<p>委員</p>	<p>この総合戦略をつくって、今後国の交付金が1,100億円ついた予算のなかを、それぞれがコンテスト形式でとっていくイメージで思っているのですが、そのなかでいいアイデアを国が拾っていくという形になるのかなと思ったときに、今幅広く戦略を書いているのですが、そのなかでも、とりわけ江田島市ではこういったものを打ち出したいというところを施策として組んで、それで交付金をとっていくという形になるのかなと思っているんですが、そういう感じでいいですか。</p>

【平成27年7月23日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録】

事務局	具体的にこうだということは出ていないんです。次年度は、まだ知りませんのでわかりませんが、たぶん、そうではないかと思います。
委員	今回の江田島市さんでつくろうとされる総合戦略が第2次江田島市総合計画と合わせた形の大まかなものだけにするのか。施策として、とんがったものを、打ち出すところまでを、この場でやられるのかというところが、ちょっとはつきりしないというのがありまして。
事務局	実際のところ、国の交付金がどういう形で出るか、それをすべて前提にして考えるわけではないですが、そこが正直なところ、こうだというのが見えていないというのがあるので、つくりとしては、手広く構えて、いざというときに財源として使えるようにできればということ、ここはつくっています。思想としてあるのが第2次江田島市総合計画で戦略を2つ掲げているうちの1個が未来を切り開くまちづくりということで、交流人口を増やして、そこを突破口にして、将来の定住者となり、人口の確保を図っていくところ、はつきり頭のなか、テーマとして掲げているところなので、まだ、今日は人口ビジョンともリンクしていませんし、まだ組み替えただけということなので、もうちょっと実際に打ち出すときには、こういったことをやっていきたいんだというのが見える形に最終的には落ち着かせていきたいと思っています。ただ、最終的には、手広い構えにしているかもしれませんが、そのなかでも、こういった思想を持って、これをつくっていますということがわかるようにしたいと考えています。
座長	ありがとうございます。他にございませんか。4番目の協議事項を終了いたします。以上で、協議事項は終了しました。事務局から補足がございましたらお願いします。
事務局	次回の日程を調整するにあたって、皆さんのほうで、この曜日がダメだというのが決まっている方があれば教えてください。9月初めか中旬かぐらいです。定例的に行事があつてダメだというのがあれば教えてください。
座長	<p><b>5 閉会</b></p> <p>皆さん、たぶんまだ言い足りないことがあると思います。どこかでその意見を伝えていただければと思いますが、今日のところは時間も過ぎていきますので、協議事項をすべて終了させていただきます。</p> <p>皆さま方、ご協力いただきまして、どうもありがとうございました。以上をもちまして、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議第1回会議を終了いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p>（終了）</p>